

復興庁入札等監視委員会第5回定例会議議事審議概要

開催日及び場所	平成29年8月2日（水）、復興庁本庁		
委員	阿部 博友 一橋大学大学院法学研究科教授 中里 実 東京大学大学院法学政治学研究科教授 *檜谷 隆夫委員は欠席 【敬称略】		
審議対象期間	平成28年10月1日（土）～平成29年3月31日（木）		
抽出案件	3件	（備考）	
（内 訳）	抽出事案審議の他に調達改善に係る取組について報告を行った。		
競争入札			
最低価格落札方式			1件
総合評価方式			1件
随意契約			
企画競争			1件
公募			件
不落・不調			件
特命（企画競争及び公募を除く）			件
応札（応募）業者数1者			件
委員からの意見・質問、それらに対する回答等	意見・質問	回答等	
（契約方式） 競争入札 最低価格落札方式 （契約件名） 平成28年度 給与計算システム更新に係る業務	<p>応札者は2者ということであったが、もっと多くの事業者の参加があってもいいのではと思うが如何か。</p> <p>競争参加者に何か特別な要件は設けていたのか。</p> <p>落札した事業者は、前回契約した事業者と同様のところか。</p> <p>公告期間を十分に確保しており、また説明会も実施するなど、特に手続に問題は見られない。引き続き、適正な入札に向けて注意をお願いしたい。</p>	<p>過度な要件を設けているものではなく、公告期間も十分に確保したが、結果として2者となったもの。</p> <p>一般的と思うが、品質管理体制について国際規格の認証を受けていることを要件に設けた。</p> <p>前回契約した事業者とは異なる事業者が落札した。</p>	

<p>(契約方式) 競争入札 総合評価落札方式</p> <p>(契約件名) 「新しい東北」の実践状況等に関する調査研究事業</p>	<p>総合評価方式とした理由は何か。</p> <p>単に価格だけではなく、ポイントをまとめる調査分析能力が必要とのことであるが、入札参加者は研究機関のようなところか。</p> <p>新しい東北について、これまでの取り組みをとりまとめたのは、今回が初めてか。</p> <p>公告期間は法令等に照らして妥当なものか。</p> <p>公告期間の確保など入札者数を増やす取組みを行った結果、複数の応札があり競争性も働いており、適正な入札と判断できる、引き続き公正な競争に向けて、ご尽力をいただきたい。</p>	<p>調査分析を行うにあたり、シンクタンク的な能力を有する事業者でなければ対応が難しく、実施能力の判断も含めて評価を行うため総合評価とした。</p> <p>入札参加者はシンクタンク的な能力を有する事業者であった。</p> <p>集中復興期間が終了し、復興・創生期間1年目である昨年度に、今後の取組みについて指標を立てるということで初めて行った。</p> <p>予算決算及び会計令の規定では原則10日間以上となっており、入札参加者を増やすため、19日間の日数を確保した。</p>
<p>(契約方式) 随意契約 企画競争</p> <p>(契約件名) 平成28年度「新しい東北」交流拡大モデル横展開型商談会・相談会実施事業</p>	<p>企画競争とした理由はなにか。</p> <p>どのようなプロセスで、複数ある企画提案の中から最も優秀と判断したのか。</p> <p>提案書で審査を行ったということであるが、プレゼンを行わなかったのか。</p> <p>実際に、現時点で効果は出ているのか。</p> <p>東北が復興しているということが、自然な形で海外に伝わるのは良いことである。</p>	<p>一律に仕様を定めるのではなく、観光のノウハウやネットワークを持っている民間事業者から広く企画提案をして頂くことが最も妥当と判断したため。</p> <p>審査委員会を開催し、各社が提出した企画書について、各委員が5項目の観点で点数化し、合計点が最も高いところを最優秀とした。</p> <p>今回は実施していない。</p> <p>最近の外国人旅行者は、団体旅行による観光等ではなく、個人による体験型志向の旅行が強い傾向にある。そのため、これらの傾向を踏まえた体験ツアーを商品化する取組み等が進められているところである。</p>

	適正な競争がなされていると評価できる。更に適正な評価となるよう、プレゼンを取り入れるなど審査プロセスの精査をしていただけると良い。
委員会による意見等の具申の内容	なし

※必要があるときは、各欄の配置を著しく変更することなく所要の変更を加えることその他所要の調整を加えることができる。